

## 実録、精度管理の現状

◎伊藤 智恵<sup>1)</sup>

JA 愛知厚生連 江南厚生病院<sup>1)</sup>

現在の診療において検査結果は健康状態の把握や疾病の診断、治療に関する客観的指標であり、必要不可欠なものとなっています。そして、その検査結果は精密かつ正確（＝精確）であることが前提となっています。その精確な検査結果を臨床へ報告するために、我々臨床検査技師は日々検査前管理、検査管理、検査後管理を含めた精度保証を実施しています。

その中でも検査管理においては精度管理が大きな役割を果たしています。精度管理は大きく分けて、経時的に同等な評価が可能な検査値となるように自施設内で日々の精度を管理する内部精度管理と、他施設の検査値と同等な検査値となるように管理する外部精度管理があり、内部精度管理と外部精度管理の両方で「精密さ」と「正確さ」を管理することとなります。

内部精度管理の目的は測定値の異常を発見することだけではなく、見逃さない測定異常の原因を追究して取り除くとともに、再発を防止することにあるとされ、内部精度管理が正しく有効に行われることが、より質の高い安全な検査結果の報告の提供を可能としています。

内部精度管理には管理試料を用いた方法や患者試料を用いた方法など種々の管理手法が報告されていますが、その中から各管理手法の特性をよく理解し、目的に合った方法を利用することが有用であるとされています。

生化学・免疫検査において、広く利用されているのが  $\bar{x}$ -R 管理図法や  $\bar{x}$ -Rs、 $\bar{x}$ -R<sub>s</sub>-R 管理図です。これらの管理図を用いて測定値の日間のかたより、日内のばらつき、日間のばらつきを見ることになります。管理図の変遷から機器の異常を早期に発見し、原因の追究や対策をとることができます。また、マルチルール管理法を用いることで、発生している誤差の種類がランダム誤差なのか系統誤差なのかを推定することもできます。

このように管理図や管理法を活用して、私たちは日々の精度管理に取り組んでいます。しかし、他施設の実際の運用状況を聞くことはあまりありません。自施設ではこの運用で実施しているけど、他施設ではどうしているのだろう。知りたいけど、なかなか聞く機会はない。そこで、愛知県臨床検査技師会生物化学分析検査研究班の班員施設を対象にアンケートを取りました。アンケートの内容は内部精度管理において「目標値の決め方」、「管理幅の決め方」、「コントロールが変動した時の対応」、「コントロールが管理幅から外れた場合の対応」、「1日におけるコントロール測定回数、タイミング」などの項目についてです。回答のあった複数施設の精度管理の実際の運用を「精度管理の現状」として報告したいと思います。

連絡先：0587-51-3333（内線:2359）